平成25年度　早稲田実業学校中等部（国語）　解答・解説

解答

一

問1　①　くよう　②　まつご
問2　(1)　イ　(2)　ウ　(3)　エ　(4)　オ
問3　たそがれ　問4　鈴子が線路
問5　泣きくれる　問6　エ
問7　安楽死　問8　三十六
問9　ウ　問10　イ
問11　店の客である〔こと〕
問12　A　いつも靴箱の上に座って　B　少しも驚かずにじっと体を丸めて
問13　たったひと
問14　A　やさしい獣の匂い　B　ア
問15　イ　問16　オ　問17　オ

二

問1　①　精力　②　過程　③　自体
問2　天
問3　(1)　エ　(2)　ウ　(3)　エ
問4　エ
問5　ウ→ア→エ→イ
問6　ア
問7　A　挑戦し続ける　B　存在理由
問8　自分の身体
問9　ア　問10　エ
問11　イ　問12　イ
問13　ア・エ
問14　A　未知の領域　B　跳び上がるような達成感　C　心脳問題　D　身体感覚
問15　イ・オ

解説

一、出典は、浅田次郎「獬（xie）」。九年間自分の分身のように思っていて、唯一の家族だった猫の「リン」を亡くした女性が、あるペットショップにたどりつくという場面です。

問1　熟語の読み取り問題です。①の「供養（くよう）」の「く」も、②の「末期（まつご）」の「ご」も、音読みとしては難しい呉音を用いた読み方です。

問2　語句の意味を問う問題です。(1)「つぶさに」は「細かいところまでくわしく」、(2)「ひとしきり」は「しばらくの間」、(3)「色気のない」はここでは「お店の中が雑然としていて飾り気のないこと」を表しています。(4)「無躾な」は「礼儀に外れて、えんりょのないこと」を意味します。「無礼」「無作法」と同じです。

問3　夕方であることがわかる「ひらがな」四字の言葉を文章中から探す問題です。傍線4の後に「鈴子はたそがれの沿線をまた歩き出した」とあり、この「たそがれ（黄昏）」が「日が沈んで、うすぐらくなったころ＝夕方」を表す言葉です。

問4　場面分けの問題です。前半が飼い猫の「リン」が死んだ経緯と葬式を終えて家に帰れずに街を歩いている場面。後半が「リン」という名のペットショップを偶然見つけ、そこの店主と会話する場面になっています。

問5　文章中から主人公の「鈴子」を十四字で言い換えている表現を探す問題です。傍線4の少し前に「動物寺のお坊さんは、泣きくれるたったひとりの縁者をやさしく諭してくれた」という一文があり、この中の「泣きくれるたったひとりの縁者」が、死んだ飼い猫の「リン」の飼い主である「鈴子」を指す表現になります。

問6　「リンはその名の通り、鈴子の分身だった」という表現の中の「その名の通り」と「分身」という言葉に注目します。「鈴子」の「鈴」（すず）は、音読みでは「リン」と読みます。鈴子が自分の名前からとって名づけたのでしょう。（エ）「自分の名前と関係の深い名前を持ち」が最も適切です。

問7　傍線3の前の段落に、最初に行った動物病院でのやりとりがあります。その中の「楽にしてあげましょう」とい

う獣医の言葉に注目します。飼い猫が苦しみながら死んでゆくのを見ているのはつらいでしょうから、薬を使って楽に死なせてあげましょう、ということです。助かる見込みのない病人やけが人が余計な苦しみを味あわずにすむような方法を選んで死を迎えさせることを、「安楽死」といいます。

問8　文章のはじめの部分に「九年前」「母を呼んでいた」「九年間の暮らし」とあることと、傍線4に「生まれたての仔猫だった」とあることから、「鈴子」と「リン」の出会いが九年前だったとわかります。この「九年前」と「猫の年齢は人間の四倍に勘定する」ということから、「リン」の年齢が「三十六」歳であると考えられます。

問9　「鈴子」の年齢は、「二十五の齢から九年も続けば」ということから三十四歳だとわかります。「リン」が人間の年齢に換算して三十六歳ですから、鈴子より少し年上になったと考えられます。

問10　傍線5の後に『『リン、だって……』／偶然にしてもひどすぎる」とあることから、「リン」のことを少しでも忘れようとしているのに、そのペットショップの名前が「リン」であるとわかり、また思い出してしまい、とてもつらく思っているのです。

問11　「ただいまセール中です〜ペットのお値段は相談しましょう」というペットショップの主人の言葉に対して「鈴子」は、「いえ、そうじゃないんです」と言っています。「〜こと」に続く形で六字の答えを作るので、「店の客である（こと）」「ペットを買う（こと）」などがよいでしょう。

問12　店の佇まいの中に感じられる、死んだ「リン」と同じような雰囲気を探し出す問題です。まず、店のペットのようすを表している表現を探すと、「おとなしい仔犬や仔猫が眠っていた」「少しも驚かずにじっと体を丸めて」などが見つかります。次に「リン」のようすを探すと、「性格の穏やかな」「決していたずらはせず、部屋を汚すこともなかった」「いつも靴箱の上に座って出迎えていてくれた」が見つかります。その中から、Aは「リン」のようすを十一字で表している「いつも靴箱の上に座って」、Bは店のペットたちのようすを十五字で表している「少しも驚かずにじっと体を丸めて」を選ぶことになります。

問13　「子供とか恋人とかを見るみたいに、動物を見る」とは、動物を自分の愛する人や大切な家族のように思っているということです。「鈴子」にとって「リン」は九年間二人きりで暮らしてきた家族同然の猫だったのです。この内容が読み取れる十八字の一文を探すと、4行目「たったひとりの家族を喪ってしまった」になります。

問14　Aは「温かな匂い」とあるので、ほっとするような「匂い」を表している八字の言葉を探します。「店内はやさしい獣の匂いに満ちていた」の「やさしい」は「温かな」に通じます。Bは「老人はにっこりと笑いかけて」や「無躾な言い方には聞こえなかった」や「老人は鈴子の悲しみを庇ってくれた」などの、老人の人柄やようすを表す言葉から考えて、(ア)の「老人のさりげない思いやりとおだやかさ」を選びます。

問15　傍線10の後に、「愚痴は聞いてやってもいいが、話すほうは辛くなる」という老人の言葉があります。「鈴子」がこれ以上せつない気持ちにならないように、気をつかっているのがわかります。

問16　傍線11の前後に注目します。前の部分では「いらないわ、と言いかけて」とあることから、「いらない」とはっきり老人に言ってはいけないという気持ちが読み取れます。後の部分では「リンのかわりはいらない」と本音が書いてあります。「唇を噛む」という動作は、悔しい気持ちや何かを我慢するようすを表しているので、この場面では、「鈴子」は老人のやさしさの前で、「いらない」という言葉を言っては申し訳ないと思ったのと同時に、それを言いそうになってしまった自分の大人げないところを嫌に思ったのです。

問17　傍線10の後に「ところで、もう一匹いらんかね」とあることからも、老人は「リン」が生きていると思って話しています。「鈴子」はこの場面まで、「リン」が死んだことを老人に伝えていないということです。(ウ)の「死因をかくしている」にひっかからないように注意しましょう。

二、出典は、茂木健一郎「挑戦する脳」。

問1　漢字の書き取り問題。「セイリョク」、「カテイ」、「ジタイ」、どれも同音異義語が多いので、意味を正確にとらえてから書きましょう。

問2　慣用表現「天にも昇る気持ち」の理解を確認する問題。「非常に喜ぶ心持ち」を例えています。

問3　語句の意味を問う問題。(1)「鼓舞（こぶ）」は「はげまして勢いをもりあげること」、(2)「通底（つうてい）」は「二つ以上の事柄や思想・意見が、底のところで共通性をもっていること」、(3)「営為（えいい）」は「人間のいとなみ、生活のこと」。難しい言葉ですので、選択肢の意味をあてはめて、丁寧に考えることが必要です。

問4　四段落に「あのころ私がそのような写真を熱心に眺めていたのは、『挑戦』という考えにあこがれ、とりつかれていたからだろう」とあります。筆者が写真を見ながら、難しいことに挑戦し、そして成功したいと強く思っていたことがわかります。

問5　文を並べ替えて、正しい文脈を作る問題です。練習の経過を考えます。最初は（ウ）「縄が当たると、猛烈な苦痛が走る」→（ア）「あまりに痛くて〜そのあたりを跳び回った」→（エ）「それでも、やめない」→（イ）「縄が片足を通り過ぎて〜」というふうに、三重回しが徐々にできるようになっていくようすをとらえます。

問6　傍線2の前で「挑戦には、さまざまなレベルがある」とあります。世界記録を出そうとするアスリートと縄跳びの三重回しに挑む小学生のレベルはあまりにも違うので、同列には論じられないというのです。

問7　「人間の芯」とは「人間の中心にあること」と考えていいと思います。筆者は脳科学者で、この文章では、挑戦するということが人間の脳の特徴であると述べています。傍線6の前の「人間とは、挑戦し続ける存在である」、「挑戦することこそが、人間の存在理由」、「挑戦することをやめてしまったら、人間は人間以外の何ものかになってしまうことだろう」が、そのことを端的に述べています。

問8　「脳回路の機能」とあるので、脳のはたらき方、情報伝達の仕方などを説明した文を探します。傍線5の前に「自分の身体を動かし～脳の神経系の結合パターンをアップデートしていく」という一文が見つかります。

問9　「そのようなコンセプト・ワーク」とは直前の「人生の真ん中に、『挑戦』を置く」ことを指しています。つまり、挑戦し続けることが人生なのだと理解し、失敗してもまた新たな挑戦をしていくことが当然なのだと言っているのです。失敗は通過点に過ぎないというわけです。

問10　修飾・被修飾関係の理解を確認する問題。「ことを」だけではわかりにくいので、「『挑戦』ということを」どうするのかと考えます。「『挑戦』ということを」→「中心的概念として立てる」とつながるので、「立てる」を修飾しているとわかります。

問11　空欄3の後の「豊かな結び付きの中に把握される」の「結び付き」から、多くのものをまとめる「統一的」が最も適切です。

問12　傍線7の後に、「脳が成長するとは、もっと劇的な現象である」とあります。これは、傍線7の前にある「脳はある一定の『機能』があって～そのような定まった『機能』を表す数値を改善する」という内容を否定していることになります。つまり筆者は、脳の「機能」を固定的にしか評価しないことに反論しているのです。

問13　（イ）は「恐ろしさと緊張」が不適切。（ウ）は「人間存在の不安定さ」が不適切。（オ）は「誰もがあえて危険を求めてしまう」が不適切です。

問14　Aは「何」に臨むことが挑戦なのかということを考えて探します。Bは挑戦して成功したときに得られるものは「何か」を考えて探します。Cは筆者の「研究テーマ」を四字で表した言葉になります。Dは脳の成長とは「何」が変わることなのかと考えて探します。

問15　（ア）は「脳の機能が固定化される」が不適切。（ウ）は「脳を鍛え活性化させること」が挑戦することの「目的」ではないので不適切。（エ）は「人々を平等に見ることができる」が不適切です。